

アスパラガス露地長期どり栽培における 定植 20 年目までの収量及び品質の経年変化

山形県最上総合支庁産業経済部農業技術普及課産地研究室

研究のねらい

最上地域のアスパラガスは、生産性の低下に伴う植え替えの目安と言われる定植から 10 年を経過した圃場が多く見られるが、長期に年数を経過した場合の収量や品質については知見が少ない。そこで、露地長期どり栽培における収量、品質の経年変化を解析した。

研究の成果

- ① アスパラガス露地長期どり栽培において、毎年、春の基肥施用後に^{きひ}籾殻牛ふん堆肥を畝上に 5 t/10a 施用し、夏に追肥を行う施肥体系では、定植 20 年目まで約 2.0t/10a 以上の商品収量が維持される（図 1）。
- ② このときの商品率は 71～93%、定植 4 年目以降の商品 1 本重は 19.2～24.5g の間で推移する（図 1）。
- ③ 最上産地研究室の当該圃場（定植 20 年目、露地長期どり栽培）の栽培暦、管理要点は図 2 のとおりである。



図 1 商品収量、商品率及び商品 1 本重の推移

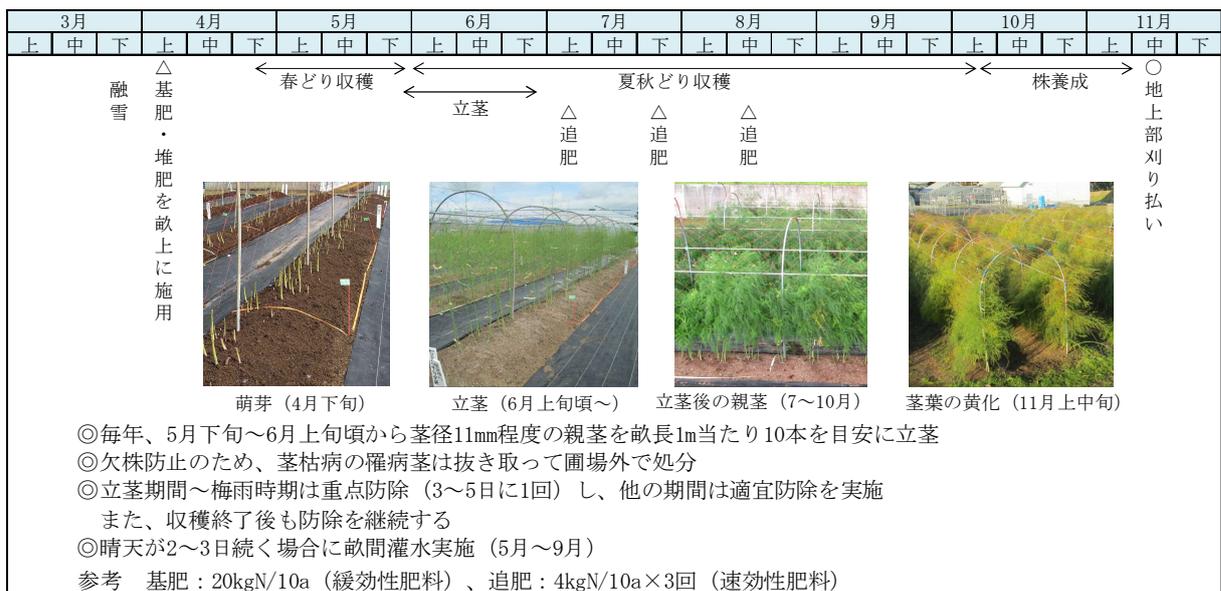


図 2 アスパラガス露地長期どり栽培の栽培暦（定植 2 年目以降）と管理要点